

国語 内容および観点別の分析					
観点	国語への 関心・意欲・態度	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言語についての 知識・理解・技能
課題点	今回の問題では正答率は高かったが、全体をみると言語に対する関心が低いようだった。	今回の問題では正答率は高かったが、最後まで集中して聞きとるという点で課題が残った。	「書くこと」の問題について問題文を理解することが難しかった。	意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力に課題がある。特に説明文では内容を押さえながら読んだり、段落のつながりを考えたりすることが難しかった。	主語・述語や、修飾語など文法を正しく理解し、活用することについて課題がある。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ○文を書く時に、文の構成を考えながら書く習慣を身につけさせる。 ○文と文との接続関係に着目し、必要に応じて複数の文を一文に書き換えるような指導をし、要点をとらえる力をつける。 ○中学年で、文章構成や段落の組み立てについてしっかり授業で押さえる。 ○言語領域の単元に力を入れるとともに、授業や宿題を通して、日常的に文法の問題に取り組ませていく。 				
具体的な改善策					
1年	語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読に取り組む 時間的な順序・事柄の順序等を考えながら内容の大体を読めるようにする。				
2年	文章中の大事な言葉や文を書きぬく指導をする。 時間的な順序・事柄の順序等を考えながら内容の大体を読みとれるようにする。				
3年	文章構成や段落の組み立てについてしっかり授業で理解させる。				
4年	文章構成や段落の組み立てについてしっかり授業で押さえる。				
5年	文章を書く時に、目的に応じて大事なことを落とさず要点をまとめる力をつける。				
6年	自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えられる力をつける。				

算数 内容および観点別の分析

観点	算数への 関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての 知識・理解
課題点	概ね良くできている。	数の合成と分解の理解が不十分。数を豊かに捉えていきたい。時間的に不足(教科書でもあまりふれていない) ・長さや面積の関係が捉えられていない児童が多い。 ・一つの答えを使って次の問題を解くという思考のつながりに課題がある。	できているところとできていないところの差がある。完答できていない。…問題の読み解き 垂直問題…交わっているものを垂直と考えているのではないか＝定義の理解が不十分	概ね良くできている。
改善策	数の操作(合成・分解)や関数的な数字の捉え方を意識的に学習していく。 低学年のうちに生活の中で数学的な経験を十分に体験する 問題文の形式に慣れていないので、形式に慣れさせる。 問題を把握する際に必要な情報を正確にとりだし、場面を具体的にイメージする力を養う。			
具体的な改善策				
1年	広さくらべ・長さくらべの活動を充実させる。 おはじき・ブロックを活用して数の操作をたくさん体験する。 体験したことをもとに、数の構成や決まりを足し算と引き算の関数的な見方を育てる。			
2年	広さくらべ・長さくらべの活動を充実させる。 具体物を使って操作したり、図に表してみたりなどをしながら自分なりの考えを表現してみる。 また、体験したことをもとに関数的な見方を育てる。			
3年	低学年でならった四則計算の応用・活用を十分に作る。基礎的な計算の習熟を図る。			
4年	数の関係を表で表すことの良さに気付いたり、その表を読みとる経験を積ませる。			
5年	既習の学習の良さに気付けるような学習活動をする。 それぞれの学習がつながって応用できるような学習指導を行う。 既習と未習の学習がわかりやすい授業にする。			
6年	苦手な部分に気付き、気づいたところを自分で学習できる方法を知る。 多様な方法で解けるようにするため、問題の場面にあった既習事項を活用できるようにする。			

理科 内容および観点別の分析

観点	自然事象への 関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての 知識・理解
課題点	<ul style="list-style-type: none"> 理科への関心、意欲は高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項を活用して考える力が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験や観察の経験が知識として定着していない。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項が定着していない。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> 実感を伴った実験、観察を十分に行う。 			
具体的な改善策				
1年	<ul style="list-style-type: none"> 五感を通じた体験を多く取り入れる。 観察の中でできるだけたくさんの発見をさせる。 発見したことを自分の言葉で表現する。 			
2年	<ul style="list-style-type: none"> 五感を通じた体験を多く取り入れる。 観察の中で変化ときまりに気付く目を養う。 気付いたことを自分の言葉で表現する。 			
3年	<ul style="list-style-type: none"> 実験器具を可能な限り手作りにする。 全員が体験できる実験をする。 実験結果を予想させる。 実験結果を文章にまとめたり、絵や図で整理し、知識としての定着を図る。 			
4年	<ul style="list-style-type: none"> 実験器具を可能な限り手作りにする。 全員が体験できる実験をする。 実験結果を予想させる。 実験結果を文章にまとめたり、絵や図で整理し、知識としての定着を図る。 			
5年	<ul style="list-style-type: none"> 実験器具を可能な限り手作りにする。 全員が体験できる実験をする。 既習事項に基づいた根拠のある予想をもって実験に臨む。 実験結果を文章にまとめたり、絵や図で整理し、知識としての定着を図る。 			
6年	<ul style="list-style-type: none"> 実験器具を可能な限り手作りにする。 全員が体験できる実験をする。 既習事項に基づいた根拠のある予想をもって実験に臨む。 実験結果を文章にまとめたり、絵や図で整理し、知識としての定着を図る。 			

社会 内容および観点別の分析

観点	社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象についての 知識・理解
課題点	概ね良くできている。	与えられた条件の整理の仕方、2つ以上の項目の関連づけやまとめ方に課題がある。答えを出す際、資料の取舍選択ができない。	問題文がきちんと読み取れていない。地図記号や方位がわかっていない。2つの項目の関連が読み取れていない。	常識的な知識、生活体験が足りない。発問の意味がわかっていない。都道府県などの位置関係がわかっていない。
改善策	基本的な知識の定着を図る。様々な角度から多面的に資料を見る力をつける。各資料が意味することを読み取った上で、それぞれの資料を関連づける必要がある。方位や地形など基本的な知識を日常生活の中で取り上げることで実感としてとらえられるようにする。与えられた条件の中で、できるだけ問題解決的な取り組みをしていく。			
具体的な改善策				
1年	生活体験を豊かにし、方位や地形、気温など、意図的に社会や理科の知識を組み入れていく。さらにその知識を自分たちの生活と関連づけられるようにしていく。			
2年	生活体験を豊かにし、方位や地形、気温など、意図的に社会や理科の知識を組み入れていく。さらにその知識を自分たちの生活と関連づけられるようにしていく。			
3年	社会の入門として、地図記号や方位、高低などの基本的な知識の定着を図った上で、応用力をつける。例えば地図記号を読み取るだけでなく、地図記号を使って地図をかく取り組みも行う。			
4年	グラフや表など資料の読み取りの基礎力の伸長を図る。身の回りの社会的事象について、なぜそうなっているかを考えさせる。			
5年	いくつかの資料の中からそれぞれを関連づけて、必要な情報を読み取る力をつける。時間の流れや時代背景もしっかり押さえる。			
6年	いくつかの資料の中からそれぞれを関連づけて、必要な情報を読み取る力をつける。時間の流れや時代背景もしっかり押さえる。			